

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年10月19日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	中切 幹男	元萩原南中学校長
副会長	布目美智男	山喜建設株式会社 社長
委員	熊崎賀代子	下呂市観光商工部観光課長
	小出 義彦	元下呂小学校長(欠席)
	島崎ひとみ	萩原スポーツクラブ副理事(欠席)
	二村 彰洋	育友会長
	皆越真佐代	NPO飛騨小坂200滝
	向野 優子	NPOみらいろ理事長
	森本翔太郎	馬瀬建設株式会社 代表取締役専務
学校側	今井 一三	校長
	近藤 和彦	教頭
	金山 実直	事務長(欠席)
	可知 嘉文	教務主任
	石丸 浩国	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事

### 5 会議の概要

- (1) 授業参観 総合学科食文化系列 特別講義  
校長挨拶  
出席者自己紹介

#### (2) スクール・ポリシーの策定について

教頭：スクール・ポリシー策定について説明

教務：カリキュラム・マネジメント推進マップ、観点別評価について説明。

生徒指導：生徒に身に付けてほしい力について説明。

進路指導：進路の課題と進学に向けての体制について説明。

#### <グラデュエーション・ポリシーについて>

意見1：生徒のコミュニケーション能力の低下を痛感するなか、本校の生徒は、明るく素直で純朴な生徒が多く嬉しく思う。今後も、そのような生徒を大切にしていきたい。

意見2：下呂市も人口減少という問題がある。一度外に出た後、Uターンしてもらうことは重要であり、帰って来たいと思わせる地域作りが必要である。地域でどの職種や職業が必要とされているか情報提供すると、地元に戻りやすいのではないかと。また、地元企業の魅力を情報提供することも重要である。

意見3：地元の声を、直接伝えることが、生徒に一番伝わる。市で教育のための人材バンクを作って小中高に派遣するという考えられる。ぜひ、市役所でも協力していただけるとありがたい。

意見4：小中高を通して、学校では個性を活かしていくことを大切に教育される。しかし、い

ざ就職すると、会社のルールに従い、仕事を全うすることが求められる。今の時代に逆行するかもしれないが、強い気持ちを育ててほしい。

意見5：進学した生徒に対して地元企業の採用情報は提供していないのか。その際、下呂で今何が行われているのかなどの情報も提供するとよい。

⇒ 市の商工課と連携し、同意した生徒に対しては情報提供をしている。

意見6：同窓会など地元で活躍する同級生などと話す機会があると、Uターンにつながるのではないか。

#### <カリキュラム・ポリシーについて>

意見1：今の若者は自己肯定感が低いように感じる。「自分はこう在りたい」という根の部分をしっかり育てることが重要だ。

意見2：子どもは保育園から中学校まであまり変化のない仲間と過ごす。高校に入り、急に人間関係が広がり、ギャップを感じるようだ。小中学校で自己肯定感を育てることで、高校に入ってから、進路やその他いろいろな場面で自ら決断ができるのではないか。

意見3：若者はネットを使うことに慣れている。今の時代は、都会に出なくても情報を集めたり、SNSなどを使って自分を発信したりすることができる。

意見4：高校に入学する頃は、将来何をしたらいいかわからない時期である。高校では好きなこと、興味があることを見つけられるとよい。それが見つかることで、将来の可能性が広がる。大人が下呂での生活を楽しんでいる姿を見せることが大切である。

意見5：下呂に住んでいる理由は、地域の人の温かさがあるからである。また、自然や郷土食も魅力である。保護者や教員が、地元が好きであるということを生徒に伝えることが大切である。

⇒ 地域の方々に地元を愛する気持ちを、直接生徒に伝えていただくカリキュラムを考えていきたい。地域のネットワークを作り、学校に入り込んでいただきたい。

意見6：まさにコミュニティスクールの発想だと思う。地域との連携について、担当の教員が変わっても、変わらないカリキュラムにするべきである。

意見7：MSリーダーズの活動は何をしているか。

⇒ 中学校とも連携しながら、交通安全運動、駅や地域の施設の清掃を行っている。

意見8：若い力で下呂を盛り上げてほしい。最近、トマトランドの活動を見て嬉しかった。部活動との連携も続けていきたい。

意見9：学校によっては、インターアクト部がなく、生徒会や全校生徒が全員インターアクトの活動をしている場合もある。本校でも全生徒がインターアクトとして、地域で活動してもらえるとありがたい。

#### <アドミッション・ポリシーについて>

意見1：自分も他県出身。子育てもしやすいが、子どもが成長すると、バスでの通学費が莫大にかかる。交通の便を工夫してもらえるとありがたい。

意見2：スクール・ポリシーは1年後に評価するのか。

⇒ このスクール・ポリシーは今年度策定し、来年度より実施する。スクール・ポリシーの内容については、3年をめどに発展的に見直しを図っていく。

スクール・ポリシーの原案について、文言の修正をして了承された。

#### (3) 校則の変更について

生徒指導より校則について現状と改訂への手順について説明。

意見1：校則については、生徒と一緒に考え、合意形成を図りたい。過程を大切にしていきたい。

意見2：実際にやってみることは大切。弾力的に対応してもらいたい。

#### 6 会議のまとめ

委員のそれぞれの立場から、本校スクール・ポリシーについて意見が得られた。今後校内の会議にてさらに討議し、第3回の運営委員会にて最終的な承認を得る。